



# Caritas Kaleidoscope

カリタス女子短期大学

英語・英語圏文化専攻

Vol. 27

## 留学生座談会 2007

英語・英語圏文化専攻 教員  
前田隆子

派遣奨学生として1年間の留学を終えて、この夏に帰国した2年生を迎え、座談会を開きました。今回は、イギリスの Chichester College から帰国した、橋本麻衣子さん、細田麻涼佳さん、丸山恵梨香さん、そしてアメリカの Johnson County Community College (以下 JCCC) から帰国した永田寿子さんにお話を聞きました。

### 【教員】

皆さん、お帰りなさい。今日はまず留学してよかったことから話ください。

### 【橋本】

私はアート・コースで学んだため、周りの学生がほとんどイギリス人で最初は英語に苦労しましたが、最終的にはとても力がついたと思います。また、日本で美術を学ぶ場合は技術を身につけることが基本ですが、イギリスではまず与えられた課題を一人で考えてこなすことが求められ、とても勉強になりました。

### 【細田】

私はホームステイだったので、その家のルールに従うことが大事でした。そこから他人への気遣いができるようになったと思います。また、ホストファミリーに日本語を教えたことは良い経験となりました。自分の日本語力を振り返ることもできましたし、忍耐力もついたように思います。

### 【丸山】

英語力に関しては、書く力と文法力が伸びたと感じます。また、イギリスでは寮で暮らしていたので、英語だけでなく、限られた予算で生活する節約術が身についたように思います。食材を安く買う方法や料理のアレンジ方法を知りました。

### 【永田】

私は車がなかったのも、ルームメイトに送り迎えを頼むことが多く、彼女の時間に自分の時間を合わせなくてはならず、その間図書館でひたすら勉強した結果、英語力がついたように思います。アメリカの大学の図書館は充実しているのもとても良かったです。

### 【教員】

皆さん、英語以外にも様々な力を身に付けたようですね。では、苦労したことや残念だったことは何ですか？

### 【橋本】

イギリス人のクラスで授業を受けたので、最初はそのスピードについて行くのに苦労しました。またアート中心のコースにいたので、午後からの語学の授業になかなか溶け込みづらかったこと

が残念でした。

### 【細田】

最初のうちは日本語でなら面白い返答が出来るはずなのに、英語ではなかなかできなくてイライラしました。また、授業の空き時間を有効に活用できなかったことが残念でした。

### 【丸山】

苦労した点は、一人で家事を全てこなさなくてはならなかったことですが、それが出来るようになって結果的には良かったと思います。また、イギリスは物価が高くて、英国内を旅行するにもお金がかかり、あまり遠出が出来なかったことが残念でした。

### 【永田】

ホスト・ファミリーとあまりうまくいかなかったことでしょうか。

### 【教員】

最後に留学希望の在学生たちにメッセージをお願いします。

### 【橋本】

若いうちに旅を経験したほうが良いと思います。イギリスに行ったら、他のヨーロッパの国々を旅して、様々な人や文化と出会ってください。

### 【細田】

留学中は辛いことも多々ありますが、後々良い経験となります。「苦労話はのちの笑い話」とも言いますね。

### 【丸山】

留学したのですから外国人の友人を作ることが大事なのは言うまでもないのですが、何か困った時には日本人の友人が頼りになるので、大事にしましょう。

### 【永田】

JCCC のあるカンザスは人種も多様で興味深いところです。勉強するにもってこいの場所だと思います。

### 【教員】

1年間の留学経験をこれからの人生のあらゆる場面で活かしてほしいと思います。皆さん、ありがとうございました。



橋本さん  
【アートコースの授業風景】



細田さん  
【ホストファミリーと共に】



丸山さん  
【クラスメートと共に】

# 英米文学の故郷

## ～第24回 ロンドン その4～

英語・英語圏文化専攻 教員  
伊藤 知子



サー・アーサー・コナン・ドイル(Sir Arthur Conan Doyle, 1859-1930)は、イギリスの小説家で、名探偵シャーロック・ホームズ(Sherlock Holmes)の生みの親として知られています。彼は 1859 年にスコットランド(Scotland)のエディンバラ(Edinburgh)に生まれました。エディンバラ大学(University of Edinburgh)にて医学を学びますが、この時の恩師ジョセフ・ベル博士(Dr Joseph Bell)がシャーロック・ホームズのモデルになりました。

### サー・アーサー・コナン・ドイル

1882年、ハンプシャー州(Hampshire)ポーツマス(Portsmouth)にて

初めて医者として開業します。医療の傍ら執筆を始め、1887年には『緋色の研究』(A Study in Scarlet)を出版して、ホームズという人物が登場します。1890年にロンドン(London)に上京して眼科診療所を設けますが、次第に創作に専念するようになります。ホームズは友人のワトソン医師(Dr Watson)と共にロンドンのベイカー・ストリート(Baker Street)221B番地に住んだことになっています。当時はこの番地はありません

でしたが、現在は221番地が出来て、そのすぐそばにシャーロック・ホームズ博物館(The Sherlock Holmes Museum)があります。ここにはホームズの書斎やワトソン医師の部屋が再現されており、ホームズが使ったとされる化学実験の器具やバイオリンも展示されています。また、ノー

サンバーランド・ストリート(Northumberland Street)には、シャーロック・ホームズ・パブ&レストラン(The Sherlock Holmes Pub & Restaurant)があり、ホームズとワトソンの居間が再現されています。



シャーロック・ホームズ  
博物館

私がロンドンを訪れたのは、2007年1月でした。小・中学生時代に図書館からホームズのシリーズを借りて、次々に読んでいったことを思い出しました。4冊の長編と56の短編からなるホームズ・シリーズは、世界中に多くの愛好家を生み出しました。ドイルは、探偵小説の他に歴史小説や心霊学の研究書も出版しています。彼は1930年にイースト・サセックス州(East Sussex)クローバラ(Crowborough)にて亡くなり、ハンプシャー州(Hampshire)ミンステッド(Minstead)の村の教会墓地に埋葬されました。



# GCN 報告

## ～“GCN Conference 2007”に参加して～

英語・英語圏文化専攻 教員  
北川 直子

“GCN Conference 2007”は8月20日(月)から22日(水)の3日間、イギリスのChichester Collegeで行われました。GCNとはGlobal College Networkの略で、メンバーである各国の大学が一つの組織となることで、それぞれがよりグローバルに、そして効果的に活躍できるように組織されたネットワークです。各大学間の絆を深め、相互理解を図りながら、学生により多くの留学の機会を与えるということがその大きなねらいです。現在、イギリス、アメリカ、デンマーク、スウェーデン、コソボ(ユーゴスラビア連邦セルビア共和国コソボ自治州)、韓国、タイ、中国、日本などの大学がGCNのメンバーとなっており、毎年、メンバー校のある国で会議が行われます。

今年はこのGCN発足の中心となったChichester College(イギリス)で実施されました。当大学はカリタス女子短期大学とは長い間、交流を持っており、卒業後の留学は勿論、在学中にも毎年数名の学生が長期および短期留学をしています。広大なキャンパスにはヨーロッパやアジアの各国から多くの学生が英語や専門知識・技術を学びに来ており、留学生のためのInternational Centreを設けています。そのコーディネーターがPeter Brown氏で本学にも毎年1、2回訪問し、一人ひとりの学生のニーズを親身に聞きながらカレッジの説明をしてくださっています。

今年のGCN会議には、パトリシア・保田先生と私の二名が参加しました。これまで、カリタスからたくさんの卒業生や在学学生をChichester Collegeに送ってきましたが、私にとっては今回が初めてのChichester訪問でした。到着した晩は、小雨の降る寒い日でした。8月だというのに11月のように寒く、唯一持参した厚手のジャケットをスーツケースから取り出し、重ね着する程でした。連絡の行き違いで飛行場からHavantという駅まで、バスと列車を乗り継いで行き、そこに一足先に到着されていた保田先生とPeterさんが車で迎えに来てくださっていました。今回の会議の出席者は全員学生寮に滞在したので、学生寮の様子がよくわかり、参考になりました。寮は一人一人が個室で共同の広いキッチンがあり、快適でした。

会議第一日目の20日(月)はメンバーの顔合わせのための朝食会で始まり、その後のCollegeツアーに続き、学長のRichard Parker氏のご挨拶と歓迎luncheonがChichester Collegeのコースの一つである、Hotel Managementの実習用レストランGoodwoodにて開かれ、昼食後には、各メンバー校のパワーポイントによるプレゼンテーションがありました。この時に、カリタスの派遣奨学生制度は他大学にはない貴重な制度であることを、改めて実感しました。

二日目である21日はChichester CollegeのAnimal CareやHorticulture(ガーデニング・造園・園芸)などのコースがあるBrinsbury Campusのツアーの後、ヨーロッパで英語力測定に使われ始めたというAnglia Examinationの紹介がありました。郊外のレストランでの昼食後、Chichesterの町の歴史と文化の名所を案内していただき、夕食は郊外のホテルThe Millstreamのレストランでfull course

を満喫しながら、交流を深めました。

最終日である22日は朝食後に、新メンバーの承認、GCNの今後の活動や計画について意見交換会が行われ、最後に次年度以降の会議の実施予定の国が決定されました。この他にも、学生のみならず、教員の教育研究にもこのネットワークを役立たせようという今後の方向性が見えてきました。

今回、GCN会議に参加したことにより、各大学の様子が十分に理解でき、留学先拡大の可能性を検討する有力な情報を得ることができました。また二日目の午後は在学中に留学し、卒業後に就職、そして更なるstep-upを目指し、再度、留学に挑戦している卒業生と会い、おしゃれなtea roomでお茶をいただきながら彼女の将来の夢を聞く機会を持つこともでき、イギリス滞在、4泊6日という忙しい日程ではありましたが、とても充実した有意義な旅となりました。そしてハブニングの結果得た、イギリス西サセックスの田園風景をのんびりと列車から眺めることができたことも一つの収穫です。澄んだきれいな空気、よく手入れされているからこそ、庭にさりげなく咲く色とりどりの花々のある家、そんな町並みを懐かしく思い出すたびにホッと一息つける気がするのです。



【 GCN会議出席者と共に 】

## Messages from Students Abroad

英語・英語圏文化専攻 教員  
パトリア保田先生

### Messages from Students Abroad

This year our scholarship students are studying at our recommended colleges in a number of countries. They have been studying for over a month now and here are some of the messages they have sent. We have greetings from Momoko Shimizu in England, Shiho Oguchi in Canada and Yuko Ando in America.



Momoko Shimizu (centre)  
in U.K.



Shiho Oguchi (centre back)  
in Canada



Yuko Ando (right)  
in U.S.A.

### [1] Hello from Chichester College in England

Chichester College began on September 3rd. I've joined the Art course as my elective choice. Mainly, I attend General English mornings and afternoons and I take Art class twice a week. Monday afternoon is life drawing and Tuesday morning is portfolio project. It's quite good for me because it is a foundation in art. It's not so difficult but important. Everyone from Caritas is in Level 4 in the English classes! We did it. My class is good and quite funny. Chihori is taking the Beauty Course. She is enjoying it. The photo shows the Summer Ball.

### [2] Hello from Malaspina College in Canada

I am having a good time everyday. Today is Saturday, so I don't have school and I have been to watch my host sister's soccer game. At Malaspina, I have chosen the Academic course. This class is very hard and I have a lot of homework everyday. There are many Japanese in ESL, but there are only three Japanese and many students from other countries such as China, Taiwan, Korea, Saudi Arabia Turkey and Brazil in my academic class. It's good for me. I had a presentation last week. I talked about the Japanese system of writing (hiragana, katakana, kanji). I made a table of Japanese characters, and I explained for about ten

minutes. It was very hard for me to talk in front of everyone and I felt nervous, but all students were interested in my presentation and in the Japanese language. Since then, some students have asked me about Japanese. The teachers are kind and interesting. My class is good. In particular, my host family is very good, so it's a pleasure to go back home everyday! September 29<sup>th</sup> was my twentieth birthday. My host family held a party for me. As you can see in the photo, we had a memorable time.

### [3] Hi from Felician College in New Jersey

I am sending you a picture of my roommate! She is Vietnamese. She is majoring in psychology. This weekend I went to her house and stayed over. I had a very good time. I met her relatives and friends. It was fun! Today I took a placement test. It was like TOEFL. As a result, I have been placed in Level 2. (We have three levels so I am at intermediate level.) Americans are very nice. The weather is good. I love New Jersey! I'll write again soon.

## 太平洋を越えた人と文化

英語・英語圏文化専攻 教員  
北脇 実千代



SHISEIDO USA の HP より  
【<http://www.sca.shiseido.com>】

昨年より「日本の女性は、美しい」というキャッチフレーズで、SMAP の歌とともに宣伝されているヘアケア製品の CM をよく目にします。TSUBAKI といわれるこの製品を売り出しているのは、資生堂というメーカーで、広く知られている日本の化粧品ブランドのひとつです。自動車やゲーム機器など日本から太平洋を越えてアメリカでも受け入れられているものは多岐に渡っていますが、実はこの資生堂も、アメリカではかなり名の知れているブランドです。一体いつごろから認められるようになったのでしょうか。

資生堂は、1872 年(明治 5 年)に薬剤師の福原有信が銀座で薬局として開業したのが始まりです。まずはねり歯磨きが開発され、1897 年に現在でもなお店頭で買い求めることができる化粧品「オイデルミン」がつけられました。今から 110 年も昔のことです。その後、ヘアトニック、香水、白粉などがつぎつぎと世に出されていきますが、第二次世界大戦が始まり、戦局が悪化するにつれて化粧品

そのものが憎まれるようになったことから、その勢いはいったん収束することとなります。

実際にアメリカへの進出が始まったのは、戦後の 1960 年(昭和 35 年)のことでした。まずハワイのデパートで資生堂の製品が売り出されるようになり、手ごたえを得た資生堂は、1962 年に「シセイドウ・オブ・ハワイ」という子会社を設立します。続いて 1965 年には「シセイドウ・コスメティクス・アメリカ」がアメリカ本土に設立されました。つまり、アメリカに進出したのは 40 年以上も前のことです。

現在では、メイシーズ(Macy's)などのアメリカのデパートの化粧品売り場には、必ずといっていいほど資生堂のカウンターがあり、日本でも手に入れることができる「ザ・スキンケア」「ザ・メーキャップ」「ベネフィアンス」などのシリーズを手にとることができます。また、110 年前に売り出された「オイデルミン」は“Eudermine”として売られるなど、改良は加えられているものの歴史は脈々と受け継がれているようです。

ただ面白いことに、日本で大々的に宣伝されている TSUBAKI をはじめとしたヘアケア製品は扱われていません。このことに関して、アメリカに留学していた友人が資生堂のヘアケア製品を使っていて、アメリカの学生に驚かれたというエピソードを思い出します。そのアメリカの学生は、資生堂がヘアケア製品を販売していることに驚いたというよりも、「そんな高価なシャンプーを使っているの!？」という反応だったとのことでした。このエピソードは、資生堂が、アメリカにおいて高級ブランドという地位を確立するのに成功しているということを端的に示しているといえます。また、海を渡ると受け入れられ方も変わることが分かると同時に、商品やブランドのイメージは、広告やマーケティングの戦略によって左右されることを示した興味深い例でもあります。

## サークルの輪

英語・英語圏文化専攻 教員  
前田 隆子



PASTEL (パステウ)

今回は、「ブラジル研究会」の部長である新垣静江さんから紹介してもらいましょう。「前期には、ブラジルの家庭料理“PASTEL (パステウ)”をみんなで作って食べました。これは、ひき肉とたまねぎに塩やブラックペッパー、ハーブを入れた後、オリーブオイルで炒め、それを餃子の皮より少し厚めのものに包んで、キツネ色になるまで揚げれば出来上がりです。後期にはポルトガル語講座を開く予定です。興味のある方はどうぞいらしてください。」

Kaleidoscope 第 27 号はいかがでしたか? 皆さまのご意見・ご希望・ご質問など、お気づきの点を [maeda@caritas.ac.jp](mailto:maeda@caritas.ac.jp) までお寄せください。

2007 年 10 月 15 日発行

発行責任者: 前田 隆子

編集協力: 東京工科大学

コンピュータサイエンス学部 堀 竜太郎

カリタス女子短期大学

Caritas Junior College

〒225-0011

横浜市青葉区あざみ野 2-29-1

Tel:045-901-5133

Fax:045-901-5066

URL: <http://www.caritas.ac.jp/english>